

いつ来ても楽しい生物工学部会

Biotechnology is Always Happy!

1 新年の抱負

1990年に正会員8名により発足した当部会は、諸先輩の尽力による順調な発展を遂げ、現在は正会員(含・名誉会員)・準会員それぞれ160名を超える会員を擁するに至りました。そして最大の特長である比較的若い会員が多いことを力の源泉に、隔月(偶数月)の例会や夏季研修旅行などのイベントを通して、さらには関連する学協会や公的機関とも連携しながら、立場や業界を超えた熱い議論や激しい交流を行っています。

本年も変わらず、①技術士ならではの業務を創出すること、②その業務をこなせる人材を育成すること、を目標に、具体的な施策を進めていく方針です。そのためにも常にオープンマインドであるように努め、今後の発展が期待される生物工学分野においてトップレベルの技術者集団でありたいという思いのもと、日々研鑽を重ねています。もちろん「いつ来ても楽しい生物工学部会～Biotechnology is Always Happy!～」という部会発足当初からのスローガンは、将来に向けて継承したい伝統です。

今後ともみなさまのご支援ご協力を賜りたく、引続きよろしくお願ひ申し上げます。

2 部会の活動状況

今年も例年通り、偶数月に例会を、さらに夏に研修旅行を開催します。

第一次試験合格者顔合わせ会では第二次試験受験への動機づけを重視し、比較的最近に技術士登録をした会員に講演していただくとともに、東京以外に北海道や西日本でも開催する予定です。第二次試験合格者顔合わせ会では技術士として活躍している会員に講演していただき、当会へ入会することのメリットもお伝えします。

今年で第22回となる業績発表会では、部会員

表1 生物工学部会行事予定

開催月	行事名	内容
2月	第一次試験合格者顔合わせ会	合格者歓迎会、第二次試験合格へのガイダンスなど
4月	第二次試験合格者顔合わせ会	合格者歓迎会、技術士登録に関するガイダンスなど
6月	業績発表会	部会員の一年間の活動報告
7月	夏季研修旅行	研究・開発や生産現場の視察
8月	夏の例会	会員技術士からの話題提供
10月	秋の例会	テーマを設定した講演会
12月	冬の例会	会員技術士からの話題提供

の1年間の業務実績について互いに披露し情報交換や協業を目指すとともに、部会を代表する技術士に特別講演をいただきます。

夏・秋・冬の例会では、会員技術士からの話題提供を基本として、特に秋にはテーマを設定した講演会を開催し、地域本部へのウェブ中継を行う予定です。

夏季研修旅行では、一般的な見学会では通常は見られない研究・開発や生産現場の視察を行い、懇親会やオプションツアーも通して、中央と地方、地方間の部会員の懇親を深めます。本年は中部地区での開催を予定しています。



写真1 夏季研修旅行参加者(2017年7月、金沢)

公的機関や関連する学協会との連携も、これまで以上に進めて行きます。

NITE(独立行政法人製品評価技術基盤機構)とは2014年に連携・協力に関する覚書を締結

しており、本年その第二期が終了します。昨年の活動は技術調査やメールマガジンへの寄稿といったものにとどまっているので、本年はさらに内容を深めた活動を計画しています。

日本生物工学会や日本農芸化学会といった関連学会とは、JABEE（日本技術者教育認定機構）関連行事への協力や大会時に部会のプレゼンスを示す展示を行うなど、さらにはJBA（一般財団法人バイオインダストリー協会）を含めて、後援・協賛行事等の企画を進めます。

3 地方との連携

生物工学分野は守備範囲が広く、北は北海道、南は九州・沖縄まで、全国に活躍の場があります。このため当部会では地区幹事制度を設けています。地域本部の区割りに準じる形で、8地区の合計13名の幹事にお願いしています。それぞれの地域の特性や、地区ごとの実情に応じた取組みをお任せしており、業務支援や人脈づくり、さらには懇親や受験指導など、幅広い任に当たっていただいています。

地方と中央の結びつきも盛んです。夏季研修旅行以外にも例会のウェブ中継を定例化しており、幹事会は毎回無料のインターネットサービスで音声をつなげています。さらに関連学協会の行事に合わせて全国規模での交流会を行うなど、リアルに出会える仕組みも作っています。



写真2 技術士全国交流会（2017年3月、京都）

4 社会的課題の解決

生物工学分野では昨年、ゲノム編集や次世代遺伝子配列解析などの新技術が一気に研究・開発の

現場に浸透しました。その反面、臍帯血が民間バンクから流出した事件、ワクチンや血液製剤というかけがえのない医薬品を製造している企業の法令違反の疑い、国立大学での論文不正発覚といった残念な出来事もありました。生物工学分野の技術者や研究者は数万人ともいわれ、200人に満たない技術士はその中では埋没しており、これらの事象に対応しようとしても、現在は無力です。それでも関連する学協会との共同作業等を通じて技術士のプレゼンスを高めるよう、部会はもとより、部会員個人も活発な活動を続けています。

特に技術者倫理や研究評価システムといった、社会実装が十分なされておらず、かつ、専門的学識に加えて成果物の評価能力や高度な倫理観を要求される技術士に関連が深い事項については、ワーキンググループを作るなどして積極的に取り組んでいきます。

5 将来展望

バイオエコノミーという言葉が昨年大きな話題になりました。石油依存の製造プロセスを見直しバイオベースの製品の成長を加速することで産業の国際競争力を強化する構想であり、欧米に続いて日本でもその必要性がようやく認識されました。このように技術と経済活動を結び付ける分野は、まさに技術士の力の発揮のしどころです。当部会でも積極的に取り組みたいと考えており、関連する他部会とも連携して、技術士の実行力を社会に実装していこうと考えています。

東田 英毅（とうだ ひでき）
技術士（生物工学部門）

生物工学部会 部会長
e-mail : htouda@tt.rim.or.jp

